

# 学校法人羽陽学園

## 第一次 アクションプラン

(平成28年度～平成32年度)



建学の精神

「敬・実・和」

平成28年5月

はじめに

## 1 策定の趣旨

本学園は、これまで理事長の将来を見据えた洞察力と確固たるリーダーシップのもと、各事業所長のガバナンスの発揮により、建学の精神に基づいた特色ある教育活動を展開してきました。

目標を実現するための事業計画においては、評議員会及び理事会において審議を尽くし、事業の進捗状況等を検証・評価しながら、各般の事業を展開してきましたが、少子化の急速な進行や本格的な人口減少社会を迎え、園児や学生の確保を巡る幼稚園、認定こども園等就学前施設や短期大学、専修学校等高等教育機関の競争は激化しています。

また、施設の老朽化や耐震化、子ども・子育て支援新制度への移行など、教育活動の基盤となる校舎、園舎等の施設・設備の見直しが喫緊の課題となっています。

このため、これまでの成果を踏まえ、さらに取組みを加速・発展させ、持続性のある学園とするため、平成28年3月の評議員会・理事会で承認を得た事業計画を時間軸で敷衍し、アクションプランを策定し、計画的かつ着実に推進していくものです。

## 2 プランの性格

アクションプランは、学園の方向性を実現するために取り組む主な重点事業の方向性と推進工程を示したものです。

## 3 実施期間

平成28年度から平成32年度までの5年間

## 4 進行管理

毎年、事業等の進捗状況や課題、目標の達成状況等の整理・分析を行い、事業の内容を見直し、改善を図ります。

なお、社会経済情勢の変化などにより内容の変更が必要な場合には、弾力的な対応を図ります。

## ○羽陽学園短期大学

- 1 建学の精神・教育理念・教育目的・教育目標の確立と明示を図るため、大学運営の基本となる教育理念、教育目標（育てたい学生像）を見直し、「カリキュラムマップ」をもとに、確定した3つのポリシーとの整合性を図り、大学改革改善に取り組んでいきます。
- 2 平成27年度国補正予算での体育館耐震改築（二期）工事として、旧学生ホールや旧実習棟の解体、外構工事について、学生の安全確保を最優先に、教育課程との両立を図りながら、平成28年8月末の完成を目指します。
- 3 国の「私立大学等改革総合支援事業」に確実に採択されるよう、教育の基盤づくりなど一層教育の質の充実を図り、同時に「私立大学等教育研究活性化設備整備費補助事業」を活用し、新体育館棟の学生ホール（配線可能な二重床整備済）などにおける学生のディスカッション、モニターを使用した発表の場など、アクティブ・コモンズの導入を目指します。
  - ※1 私立大学等改革総合支援事業  
教学面から大学改革に組織的・体系的に取り組む私立短大等に経常費、施設整備費を一体として重点的に支援するもの
  - ※2 私立大学等教育研究活性化設備整備費補助事業  
教育の質的転換や地域発展などの改革に全学的・組織的に取り組む私立短大等に対する支援を強化するため、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援するもので、「私立短大学等改革総合支援事業」の支援対象校に選定された私立短大学等において、取組の実施に必要な施設設備がある場合、補助するもの
- 4 一般財団法人短期大学基準協会が行っている「第三者評価」の平成29年度実施に向けて着実に準備を進めます。
  - ※第三者評価  
短期大学教育の継続的な質の保証を図り、評価システムや評価の結果を公表することにより広く理解と支持を得るため実施しているもので、国の指導で7年に一度の実施が必要であり、本学は前回、平成22年度に実施。
- 5 新実習室が完成したことに伴い、専攻科における介護教育の一層の充実を図るとともに、羽陽の里たかだまとの連携を一層密に図り、介護実習の場として、また、学生と利用者の日常的な交流による高齢者への理解を深めていきます。
- 6 介護福祉士学校の地域貢献の一環として、平成28年10月から「介護福祉士実務者研修（通信課程）」制度を開設します。

7 国のエコキャンパス推進事業を活用し、環境に配慮した施設にするため、高効率型変圧器や照明器具、エネルギー消費効率の高い空調設備、トイレや水栓の節水型器具等への更新を図ります。

8 山形駅西口に平成29年度開校予定の専門学校（総定員470人、介護福祉、経理、スポーツ、公務員コース）の動向を見据えて、強く危機感を持ち、短期大学と専門学校との教育課程や目指す人材像の違いや特徴を明確にしたPR活動を入口（高校）はもとより、出口（就職先）にも拡充し、ひいては、入学生の安定的な確保につながるよう努めます。

### （主要事業とその工程）

主要事業・施策	H28	H29	H30	H31	H32
○ポリシーとの整合性ある改革	⇒検討	⇒一次改革	⇒継続検討	⇒二次改革	⇒フォロー
○耐震改築（二期工事）	⇒8月完成				
○私立大学等改革総合支援事業	⇒申請	⇒申請	⇒申請・採択	⇒申請・採択	⇒申請・採択
○教育活性化設備整備事業 (学生ホール等のアクティブ・ コモンズ、ラーニングの導入)		⇒検討	⇒設計	⇒申請・導入	
○第三者評価	⇒申込	⇒提出審査			
○羽陽の里たかだまとの交流	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
○介護福祉士実務者研修の開設	⇒10月開設				
○エコキャンパス推進事業		⇒検討	⇒継続検討	⇒設計・申請	⇒導入
○入学生の安定確保対	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
				※入学定員充足 率超過分1.0倍 超、一般補助減 額措置に留意	

## ○山形調理師専門学校

- 1 調理師の一層の資質向上と独自性を生かした教育を目指し、平成27年4月から改正施行された「調理師養成施設指導ガイドライン」に基づく教科科目の見直しや実習時間の充実などが図られた新カリキュラムが、平成28年度に全学科で実施されることに伴い、学生の調理教育の改善充実と就職指導の一層の推進を図っていきます。
  
- 2 入学者増に向けた学生募集の充実に取り組みます。
  - (1) 高等学校との連絡相談会・進路相談会のほか高校訪問の機会を増やし、学校PRの充実を図るとともに、オープンキャンパスの開催増による直接体験や印刷物、インターネット等の媒体による入学体験の機会を増やし、出願者数を確保します。
  - (2) 平成27年4月1日付け教育訓練給付制度の指定専門学校であることを一層周知し、社会人・既卒者の入学者増に取り組んでいきます。

※教育訓練費

労働者や離職者が厚生労働大臣指定の教育訓練講座を受講し修了した場合、雇用保険から経費の一部(約4割)を支給する制度。山形調理師専門学校は、平成27年度4月入学生から対象。
  - (3) 魅力ある学校案内の作成・ホームページの改訂・「山調ブログ」の定期更新・マスメディアの有効活用を図ります。
  
- 3 魅力ある学校づくりのため引き続き、次に取り組んでいきます。
  - (1) 新教育課程の指導目標に適合した指導計画を作成し、充実した授業を展開します。
  - (2) 基礎基本の徹底指導と学生の社会性の涵養を図るとともに、欠席学生の減少に向けて保護者との連携を密にします。
  
- 4 就職指導について引き続き、次に取り組んでいきます。
  - (1) インターンシップ等により、学生の職業意識の高揚を図るとともに、調理師として必要な社会常識の指導を徹底し、希望者全員の就職決定を図ります。
  - (2) 卒業生や調理関係業界との協力を重視し、「ようこそ先輩！」等の講話や実習等の機会を設けて進路意識の向上を図るとともに、事業所訪問の実施による職場開拓を推進します。

**(主要事業とその工程)**

主要事業・施策	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2
○調理教育、就職指導の充実	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
○学生募集の充実					
(1) オープンキャンパスの開 催増、各種媒体活用	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
(2) 教育訓練給付制度の活用 による社会人等の入学者 増	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
(3) ブログ、マスメディアの 活用	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
○魅力ある学校づくり					
(1) 指導計画の作成、充実し た授業の展開	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
(2) 社会性の涵養、欠席学生 の減少	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
○就職指導					
(1) 希望者全員の就職決定	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
(2) 卒業生等の講話、事業所 訪問	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

## ○附属幼稚園・認定こども園

- 1 鈴川、たかだま、大宝の各幼稚園については、総じて園児数の減少傾向に伴い、3歳未満児の受入れが不可欠であり、各幼稚園の地域特性やニーズに対応した子ども・子育て支援新制度の移行類型や移行年次について、行政(市・県)とも協議しながら、各幼稚園の施設利用計画や職員配置計画等が整い次第、新制度に移行します。
- 2 附属幼稚園、認定こども園としての「売り」や園児と羽陽の里たかだまの利用者との触れ合いを通じた豊かな人間形成につながるメリットを強調し、短大、幼稚園（認定こども園）、そして羽陽の里が三位一体となって園児募集の推進に努めます。
- 3 より充実した幼児教育を行うためには幼稚園教諭・保育教諭の資質向上が不可欠であり、園内研修の充実を図るとともに、山形県幼児教育研究会主催の研修会をはじめ附属四幼稚園の研修会や外部への派遣研修等、各種研修事業へ積極的に教職員を派遣します。
- 4 附属幼稚園・認定こども園の円滑な運営を図るために、羽陽学園短期大学長が出席する園長会議の定期的な開催など、附属幼稚園・認定こども園と羽陽短期大学との一層の連携・交流を強化しながら、幼稚園等が抱える課題解決に努めていきます。
- 5 老朽化している幼稚園の建物、構築物については、定期的な安全点検に努め、不具合の箇所など必要に応じ修繕を行います。

※ 建築年次

(鈴川：S58 鈴川第二：S49 このみ：H25 たかだま：H3 大宝：S56)

(主要事業とその工程)

主要事業・施策	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2
○新制度移行 ・鈴川幼稚園	⇒検討・行政 との調整	⇒施設型移行	⇒継続検討 ※定員規模220名と 規模が大きいため	⇒継続検討	⇒継続検討
・たかだま幼稚園	⇒検討・行政 との調整	⇒施設型移行 (調理室等一部増 改築基本計画)	⇒継続検討 (調理室等一部増 改築実施設計、 補助申請)	⇒幼稚園型認定 こども園移行 (増改築施工)	
・大宝幼稚園	⇒検討・行政 との調整	⇒施設型移行 (耐震診断・調理 室等一部増改築 基本計画)	⇒継続検討 (耐震補強・調理 室等一部増改築 実施設計、補助 申請)	⇒幼稚園型認定 こども園移行 (耐震補強、増 改築施工)	
○園児募集の充実	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
○教職員の資質の向上	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
○短大との連携・交流	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
○定期的な安全点検	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒